

やしろの水道について知ろう!

前回は、大きな地震が起きたときの水道施設の状況や皆さんができる地震への備えについて学びました。

今回は、八潮市が行っている災害対策について勉強していきましょう。

水道管が壊れて、水が使えなくなったら困るよね。
八潮市では地震に備えてやっていることはあるのかな?



八潮市では大きな地震に耐えられるよう、順次、地震に強い水道管（耐震管）にしています。管には重要度が高く太い管（基幹管路）と、そこから枝分かれしている細い管があります。

基幹管路は平成29年から工事を進めています。また、枝分かれしている管もたくさんあるので、古くなってきたものから計画的に工事を進めています。

水道管の工事はどのくらい進んでいるんだろう?



八潮市内の全ての水道管の長さは、約414キロメートルで、水道管を直線に繋げると八潮市から大阪市まで届く距離になるんですよ。そのうち約107キロメートルが耐震管に切り替えられています。（耐震化率25.8パーセント）

第5回

地震が起きたらどうなるの？ （地震対策編その2）

市内にそんなにたくさんの水道管が入っているなんて知らなかった！

以前の水道日より、水を送り届けるには水道管だけでなく、配水池やポンプ室、水源井（井戸）などの施設も必要だということを知ったよね。これらの施設も地震に強くしていく必要があるのかな。



そのとおり。大きな地震が起きても水を送るためには、水道管以外の水道施設も地震に耐えられるものに変えていく必要があります。

配水池の工事は終わりましたが、今後は井戸水を飲むようにする施設なども新しくしていく必要があるんです。

工事しないといけない水道施設は、まだまだたくさんあるんだね…。まとめて工事することはできないの？



水道施設を地震に強くしていくには、たくさんのお金や労力、時間が必要となります。これらの工事を一度に行うことはできませんが、それぞれの施設の状況を確認し、優先順位をつけて着実に工事を進めていきます。

また、工事を行うには周辺の皆さんのご理解も必要となります。その際には皆さんのご協力をお願いします。

【お問い合わせ】施設課設計工事担当 浄配水・計画担当